

事業活動実績報告書

施設名	あすなろ幼稚園		
教育理念	「さがそうよ、キラキラのじぶん」主体性・共生性・体力を育む		
1 事業名	自分が食べるもののルーツを知ろう		
2 実施期間	令和 7年4月1日 ～ 令和8年3月31日		
3 取組概要	（取組日） 令和7年5月7日 ～ 令和7年7月17日	（実施内容）当該期間における取組内容を詳細に記載すること ・園の畑にクラス毎に何を育てるか相談して決めた野菜の苗を自分たちで買いに行き、植え、育て、収穫し、どんなメニューで食べるかクラスで相談して食材を自分たちで揃え、食べる	
	（取組日） 令和7年12月8日 ～ 令和7年12月8日	（実施内容）当該期間における取組内容を詳細に記載すること ・移動果樹園で食育外部講師を招き、ミカンのもぎ方やみかん農家の思いなどを知り、実際にミカンを収穫して持ち帰る	
	（取組日） 令和7年5月8日 ～ 令和8年2月24日	（実施内容）当該期間における取組内容を詳細に記載すること ・園自慢の本格ピザ窯で、園児がピザ生地を練って好きな形に成形し、トッピングも自分で選び飾り、焼いて食べる	
	（取組日） 令和年月日 ～ 令和年月日	（実施内容）当該期間における取組内容を詳細に記載すること	写真添付 （区HPで公開が可能な写真を添付してください） 活動内容が分かるもの 取組に関するもの
	（取組日） 令和年月日 ～ 令和年月日	（実施内容）当該期間における取組内容を詳細に記載すること	

効果検証報告書（継続事業用）

施設名	あすなろ幼稚園				
教育理念	「さがそうよ、キラキラのじぶん」主体性・共生性・体力を育む				

事業の区分(5領域)	幼稚園教育要領に示された5領域に該当するもの(複数可。最も当てはまるものには◎を選択してください)				
	健康 ◎	人間関係 ○	環境 ○	言葉 ○	表現 ○
1 事業名	自分が食べるもののルーツを知ろう				
2 事業概要	・園の畑にクラス毎に何を育てるか相談して決めた野菜の苗を自分たちで買いに行き、植え、育て、収穫し、どんなメニューで食べるかクラスで相談して食材を自分たちで揃え、食べる ・移動果樹園で食育外部講師を招き、ミカンのもぎ方やみかん農家の思いなどを知り、実際にミカンを収穫して持ち帰る ・園自慢の本格ピザ窯で、園児がピザ生地を練って好きな形に成形し、トッピングも自分で選び飾り、焼いて食べる				
3 対象学級(クラス名) 対象人数	全学年、全クラス(クラス名: 11)			228 名	
計画時 4 実施体制	取組に必要な環境(人員、事業の遂行に必要な技能やノウハウ等)の保有状況				
	・畑の整備(名誉理事長・非常勤職員)、苗の育成指導を園近隣の農家をお願いしている(ボランティア) ・収穫した野菜の調理(副園長・非常勤職員) ・みかん農家の方を食育講師に招く ・ピザ職人の元、ピザ焼き研修を受けた職員が子ども達が作ったピザを焼く				
事業後	4についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 ・畑の整備に人的配置が必要になった。 ・年間各学年2回ずつのピザ会を開催することで、学年ごとに年間の中でピザ作り体験を進化させる必要があり、その工夫が必要。 ・異常気象により、ミカンの収穫時期が変動し、ミカン狩りの日程を組むことが困難であったので、安定した日程を組めるよう、交渉を重ねていく必要がある。			
	5 事業のねらい	自分の口に入るものがどこから来て、どう育て、どう調理されて届くのか、また作っている方はどんな気持ちや、どんな事情を抱えているのか、実体験として体感することで食や農業に興味を持ってほしい。 命の巡りを体感してほしい。			
事業後	5についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 ・活動後の給食時等で園児の食への興味の広がりや、摂食チャレンジの広がりが多く見られた。食育体験の必要を強く感じた。 ・ミカン農家の方の苦労等を直接聞いてからミカン狩り体験をすることで、家に帰ってから自分でもいだミカンを家族にプレゼントしながら様々なミカンにまつわる話をした子が多かったと聞いた。 ・ピザ作りのため、家でどんなトッピングにするか練習を重ねてから臨んだ子もいたと聞き、家での食育活動にもつながっていると実感した			

6 取組の内容	計画スケジュールを含む詳細な取組内容、経験させたい内容等 ・5月第一週(GW明け)までに各クラスで苗の種類を子どもたちが相談して決め年長クラスが園を代表して近隣の園芸店まで全クラス分を買い付けに行く。苗が届き次第、園敷地内の畑にクラス毎に植えに行く。植えるときは畑担当の名誉理事長からそれぞれの野菜の由来や命を頂く意義の話を聞く。その後も園生活のなかで週3回程度の頻度で水やりに行く。必要に応じて添え木、肥料等もする。収穫日が決まったらクラス毎にメニューを相談しておき、必要な食材を揃え収穫したら(今年度は6月第2週から開始)その日のうちに調理して食べる。 ・年中の3月に畑にジャガイモの苗を植える。年長6月に収穫し、一部を給食として全学年に提供し、一部は年長が家庭に持ち帰り、家で楽しむ。 ・芋掘り遠足に年齢的に行かない(長時間観光バスに乗れない)満3歳クラスののために職員の植えたサツマイモを他学年の芋掘り遠足の日に収穫して持ち帰る。 ・12月8日に移動果樹園みかん狩りを開催。みかん農家の方にミカンのもぎ方やみかん農家の思いなどを知り、実際にミカンを収穫して持ち帰る。 ・年長は5月も2月も自分で生地から練ってトッピングして焼くピザ会を実施する。(他学年は担任が子どもの前で生地を練る。トッピングで学年差をつける) 上記のうち、幼稚園教育要領に示された「内容」について、各園で積み重ねてきた取組を発展させた点 『領域「健康」の内容(5)』 先生や友達と食べることを楽しむ。←クラスで野菜を育てて子ども達と相談して決めたメニューで食べる 『領域「健康」の内容(6)』 健康な生活のリズムを身に付ける。←育てた苗の水やりの習慣化や食事作法の根本理解 『領域「健康」の内容(9)』 自分の健康に関心をもち、病気の予防などに必要な活動を進んで行う。←ミカン農家さんの話から感染症予防等の知識を身に付け、家庭生活に反映させる (継続事業のみ記入)前年度の取組から発展させた点 ・今年度から年長以外の学年も自分たちが選んだ苗を自分たちで買い求める、という活動を体験してほしいと考え、年長が買ってきた苗をテラスで先生が「苗屋さん」として開店し、各クラスそこへ買いに行く、という活動を加えた。 ・ピザ会では、年中のトッピングをクラスごとにクラスで話し合っていて決めているが、今年度からさらに話し合いで決める幅を持たせ、基本のソース・チーズも選べるようにした。
事業後 6についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 ・今年度から年長が買ってきた苗をテラスで先生が「苗屋さん」として開店し、各クラスそこへ買いに行く、という活動を加えたことでどの学年も苗植えや野菜を苗から育てることがより自分事に捉えられるようになったと思う。 ・クラスごとに育てる苗を相談して決め、育て、収穫し、クラスで収穫野菜を何のメニューで食べるか相談して決め、そのために必要な他の食材を考え、調理を副園長にお願いし、食べるという活動をすることで、「ピーマンの肉詰めならピーマン食べてみる」「キュウリはかつぱ巻きで食べたい」などの子どもならではの意見を保育で実現していく喜びを子どもだけでなく保育者含め、園全体で満喫できた。 ・移動果樹園では園外保育にいけない満3歳クラスも体験でき、園全体の大きな学びとなった。 ・ピザ会では年間2回体験したことにより、年長は初回はトッピングを園で用意し、2回目に家から持参、年中はクラスで相談して買いに行く等、学年ごとの楽しみ方を段階をつけて提案できたことが、次年度に繋がる活動になった ・ピザ会では、年中のトッピングをクラスごとにクラスで話し合っていて決めているが、今年度からさらに話し合いで決める幅を持たせ、基本のソース・チーズも選べるようにしたことによりデザートピザ等への可能性も広がり、話し合いも白熱、結果としてデザートピザにはどのクラスもならなかったが、照り焼きチキン等の今までにないアイデアのピザを作れることとなった。

計画時	7 環境構成例	・畑の整備、近隣の農家の方との打ち合わせ、苗を買い付けに何う園芸店(奥戸園)との打ち合わせ、テラスでの苗屋さんの設定、苗の育成に合わせて必要な園芸品を揃えて設置する。満3歳クラスのみは自分のクラスの前でプランターで育てるため、その準備。 ・移動果樹園みかん狩りを迎える前に、子どもたちが製作物での果物狩遊びを楽しむ。 ・本物のピザ生地を練る前に「夢のピザ」の描画活動等を通してイメージしておく
	事業後	事業実績から推測される効果や改善点等 ・各学年ごとの活動として環境構成するだけでなく、年長が他学年の苗の買い付けに行き、その苗をテラスで苗屋さんとして模擬店を作ったことでより子ども達にとって野菜を育てることが「自分事」に感じられたと思う。他学年と連携を取ることで活動が膨らむことを実感し、それを見越した環境構成が必要だと分かった。 ・移動果樹園を前に製作物でのミカン製作活動を行ったことで満3歳クラスでも本番を臆することなくより楽しめたと思う。
計画時	8 期待される効果 児童の姿	取組を通じて期待される児童の姿や効果等 ・ピーマンやナス、トマトを嫌い、全く食べない子が多いクラスで敗えてそれらの野菜を育てたら、自分たちで育てた野菜だけは食べる機会になるなど、食の広がりを期待する ・ミカン狩りでミカンに興味を持ったり、農家の方の想いを想像してミカンを食べようになる ・玉ねぎやピーマン、しめじ等の自分が苦手な野菜をピザを作ることで興味を持つてほしい
	事業後	事業実績から推測される効果や改善点等 ・ピーマン・ナス・トマトを嫌い、全く食べない子が多いクラスで敗えてピーマンを育てたところ収穫時にメニューの話し合いで「○○なら食べてみる」という声が挙がり、その希望を叶えて調理したところ、ほんの一口だがチャレンジできた子が居た。 ・ミカン狩りでミカンに興味を持ったり、農家の方の想いを想像してミカンを食べようになったとのこと。 ・玉ねぎやピーマン、しめじ等の自分が苦手な野菜をピザを作るために自分から選び、作り、食べる子が多い。「自分で好みにトッピングを選べる」という無理強いされない雰囲気が逆に主体的に苦手野菜にチャレンジする一歩となった ・ピザ作り活動の前に家庭で何度も練習してトッピング選びや作り方を練ってきた子がおり、この活動の家庭への広がりを感じた。
	9 効果検証総括	事業を通しての感想、今後の教育・保育に向けて 食育に対してはどの活動も子ども達がとても前のめりで取り組んでおり、興味の深さを実感するとともに、自分の口に入るものの経緯と行方を体感しておく、という経験は何物にも勝る学びだと感じた。 これまでの活動では保育活動に終始しており、毎日食べる給食との連携は見られなかったので、次年度は給食との絡みも含めて検討していきたい。 今後も園児と共に考え、相談し、トライ&エラーを繰り返しながら、あすなろならではのユニークで豊かな食育に取り組んでいきたい

※必要に応じて、別紙の添付やイラストの活用などにより事業説明を補足しても構いません(別紙は任意様式)。

※幼保連携型認定こども園教育・保育要領における教育のねらいや内容等については、幼稚園教育要領の5領域から構成されていることを踏まえ、本事業では「幼稚園教育要領」とのみ記載しています。